

季刊マーメイド

逗子市立図書館報

第10号

2015年11月1日発行

逗子市立図書館

逗子市逗子4-2-10

046(871)5998

<https://www.library.city.zushi.lg.jp>

ちゅうけん
忠犬

こんごう なち
金剛・那智・ジュリー

～昭和の初め頃、逗子延命寺には「忠犬之碑」がありました。

今回は逗子に伝わる忠犬のお話です～

「金剛」と「那智」は、満州事変のころ、青島（ちんたお・中国山東省に位置する都市）で育てられたシェパード犬で、満州独立守備隊の軍犬です。

忠犬 金剛と那智



忠犬銅像（繪はがき）

軍犬研究家の板倉至（いたくらいたる）少佐が犬係の主任として日本から来任し、十七頭全ての訓練を担当しました。その中で最も利口で優秀だった二頭を板倉少佐はそれぞれ「金剛」「那智」と名づけ、とても可愛がっていました。

満州事変が昭和6年9月18日に始まりました。その夜、奉天（ほうてん・現瀋陽市）の守備隊に非常召集がかかり、北大営（中国軍の兵営）へと向かいました。一中隊と本隊の伝令役として兵隊に加わり、金剛・那智も共に出動しました。突撃の命令で金剛・那智は真っ先に敵中に飛び込み、金剛は胸、那智は腹に敵弾を受け倒れました。二頭とも口には敵兵の軍服の切れ端をくわえていました。

ジュリーと板倉少佐

青島で幼時より軍用犬として育てられたジュリーは、板倉少佐の元へ送られて以来、板倉少佐とともに入浴や食事をするなど、戦死した二頭以上にとっても可愛がられました。金剛・那智が出陣した時、ジュリーは少佐の家族の護衛をする任務を果たしていました。

金剛・那智の戦死の後、ジュリーは少佐とともに警備や偵察の命令の任務についていましたが、板倉少佐も昭和6年11月に戦死し、少佐の遺族とともに、昔、少佐が住んでいたことのある逗子へと移り住むことになりました。

しかし、帰国後間もない昭和7年2月、感染症にかかりジュリー

は病死しました。

ジュリーの葬儀は、ゆかりのある青島から花輪の寄贈と、住職の読経、遺族の焼香など、家人の死のように営まれ、遺骸は逗子延命寺境内の竹やぶの中へと埋葬されました。



忠犬の碑

昭和8年4月、板倉少佐の遺児は逗子小学校に入学し、校長は板倉少佐の遺族であることを知りました。北大宮での金剛・那智の活躍と戦死、ジュリーの死を聞き、少佐未亡人と遺児に案内され、竹やぶの中のジュリーの墓を弔いました。いたく心を打たれた校長は、

翌朝子どもたちに、金剛・那智の死と墓参りの話をしました。

この話を聞いた子どもたちや、少佐の長女が逗子実科高等女子校尋常科（現県立逗子高等学校）に入学したこともあり、この「忠犬物語」はしだいに学校を飛び越え、逗子の町全体にまで広がりました。

ジュリーの墓を詣で、墓前を訪れる生徒・児童は日ごとにその数を増し、焼香や賽銭も積まれるようになりました。それを見た住職は、子どもたちのために墓を寺の前へと移しました。子どもたちはやがて、軍用犬すべての功績を称える記念像を造立しようと、建設資金を持ち寄り、寄付も積み立てられました。小さな記念碑程度であつた計画が、立派な軍用犬の銅

像に変更され、「忠犬之碑」（ちゆうけんのは）が完成しました。

昭和8年7月逗子延命寺での除幕式の際、時の陸軍大臣荒木貞夫大将も出席し、軍犬の金鶏（きんし）勳章といわれる甲号功章（首輪）が贈られました。



甲号功章の首輪

犬のてがら

文部省国定教科書「尋常小学国語読本 巻五」第22課には、「犬のてがら」として、那智・金剛が登場する物語が掲載されました。

（本文一部抜粋）

満州事変の最初の夜の事でした。我が軍にしたがつて、傳令の役をして居た軍犬金剛・那智は、いよいよとつけきとなると、我が軍のまつ先につき進んで：



尋常小学国語読本 巻五

「犬のてがら」

忠犬の歌

逗子小学校の子どもたちは年に一度、学校行事として「慰霊祭」に参加し、忠犬の像を囲みながら歌をうたい、金剛・那智・ジュリーを偲びました。

「忠犬の碑の除幕式の歌」

作詞 本田国江

～忠犬の碑は

いまなりぬ（除幕式のみ）

金剛那智の

戦功と

ジュリーの功を

とこしえに

われらたたえん

もろともに

「手帳」9「」より



逗子延命寺 動物愛護慰霊之碑

逗子延命寺にある忠犬の銅像は太平洋戦争中の昭和18年に、金属などの物資不足を補うため供出されました。終戦後は台座も取り除かれてしまいましたが、その後、同寺にわずかに残る台石の一部を使用し、「動物愛護慰霊之碑」が建立されました。その時、三頭の遺骨もここに納められました。

延命寺神田宜圓前住職は、除幕式当日に読経した一人です。中国やフィリピンへ二度にわたり戦地に赴いたこともあり、戦争のおかげで犠牲になった動物がいることを忘れてはならないと、毎朝、この動物愛護慰霊之碑に経を唱えたそうです。

今も金剛・那智・ジュリー三頭の遺骨はここで静かに眠っています。

三頭の冥福を祈るとともに、この平和な世の中がいつまでも続くことを願うばかりです。



逗子延命寺 動物愛護慰霊之碑

平成3年に靖国神社から軍馬・軍鳩・軍犬の碑を建立するにあたり、「忠犬之碑」の資料を参考にしたいとの申し入れがあり、当時延命寺で保管していた甲号功章・賞状・レプリカ・絵葉書・写真等は、

現在、靖国神社遊就館で保管されています。

※忠犬の物語はこの他にも諸説あるようです。



主な参考文献

- ・「逗子市史通史編」 逗子市 P 213.7 ス
- ・「逗子小学校創立百年記念」 逗子小学校 37.7 ス
- ・「手帳「9」」 手帳の会編 手帳の会 05.7 テ-9
- ・「小学生新聞に見る戦時下の子供たち」 第2巻 秋山正美編著 日本図書センター 384 7-1
- ・「神奈川新聞」 昭和56年3月7日
- ・「セピア色の三浦半島」 辻井善彌著 郷土出版社 P 213.7 ツ